

眼の奥に焼き付けた未来へのトライ

7月1日、2年生生き方講演会講師、太田渉氏。

中学生時代に家で友人とゲームに興じている傍らで、テレビではJリーグ発足直後の開幕戦が放映されていた。知らず知らずのうちに画面から伝わるその試合の熱気に引き込まれ、自分の“何か”にスイッチが入り、その瞬間、自分は将来サッカー選手になる、と固く決意。それまで遊び感覚で取り組んでいたサッカーに本腰を入れて練習に明け暮れる。尊敬する三浦和良選手にあこがれ、サッカーの本場ブラジルでのプレーを志し、高校時代の監督にブラジル行きへの具体的支援を数年間一日たりとも欠かさず懇願する日々。

高校卒業後、ブラジルに渡りプロ契約。帰国後、Jリーガー、JAPANサッカーカレッジでコーチを務める。

誰もが「無理」と言ったことを、「無理」なんかではなかったじゃないか、と見返した男。

7月3日、当校卒業生原わか花さん、パリ2024オリンピック競技7人制ラグビー女子日本代表内定。

中学時代はバレー部のキャプテンでエース。身長の手短さを痛感し、高校でバレーボールを続けるべきか悩んでいたある日、ラグビーの大学選手権の試合をテレビで観戦。「これだ」と思い立って、その日のうちに、女子ラグビー部が全国のトップに君臨する島根県石見智翠館高校にメールを出してコンタクト。慶応大学でもラグビーを続け、東京オリンピック、ワールドカップに続くオリンピック代表選手に選ばれる。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

私は、Jリーガーになることも、オリンピックに出ることも、プロ野球選手になることも、芸能人になることも、あるいはノーベル賞やアカデミー賞を獲得することも、誰もが簡単に成し遂げられることではない、すごいことだなと思います。

しかし、そのこと自体を賞賛や評価の対象の最優先にすることは決してありません。中身こそが問題です。

上記の二人に共通していることが4つあります。周囲のだれからも応援されるような人間性の持ち主であること、あきらめない心を持ち続けてきたこと、そして、自分の道を自らが切り拓いてきたこと。まず、この3つです。

これは、生徒のみんなにこれまで私が言い続けてきた、一人間一集団としての目指すべき姿として合致するものです。

ですから、太田さんに講演を依頼したのも、生徒会が企画した原さんの応援プロジェクトに躊躇なく賛同したのもこのためです。

そして、残るもう一つの共通点は、どちらもテレビのスポーツ放映が、人生の転換に大きな役割を果たしたということです。

二人とも、テレビのスポーツ中継を観て、稲妻のような衝撃が走ったのです。メディアの影響もさることながら、人間の五感の中でも、特に視覚というのは強いインパクトが与えられる体感なのだと思います。同じ内容を誰からかの話で聞いたり、本で読んだとしても、これほどの衝撃を受けることはあり得なかったでしょう。

これは、私たちの子どもたちへの指導や、子どもや保護者の方と接する場合にもあてはまります。口頭文字だけの伝達や意志のやり取りは、伝わり方に違いが出てきます。同じことを教えたり伝えたりしても、人によって受け取り方は無限にあるものです。

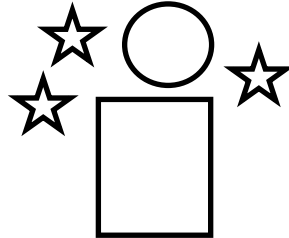
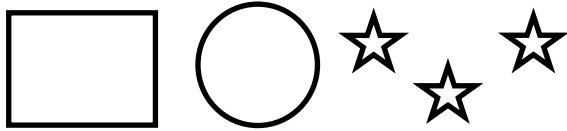
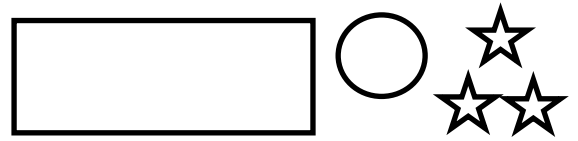
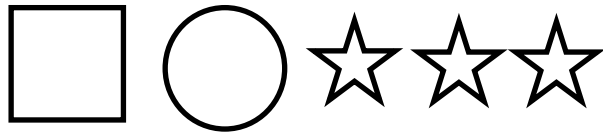
ですから、相手に理解させる、わかってもらうためには、具体性、視覚に訴える、つまり見える化を図ることは重要な手立てであるのです。

原さんがオリンピック出場が決まった数日後に、先生方4人に、口頭で次のような指示を出して、ある実験をしました。

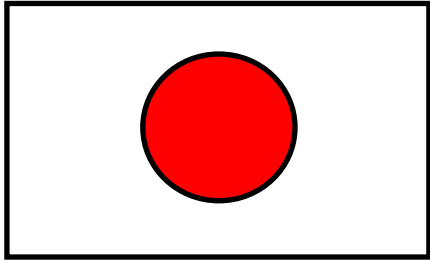
一枚の用紙に、次の指示された図形を書いてください。

- ① 「しかく」を書いてください
- ② 「まる」を書いてください。
- ③ 「星3つ」を書いてください。

4人の先生方の書いたものは次のようなものでした。



なるほど、口頭による受け取り方は人それぞれなのです。私が書いてほしいと望んだ図形はこうだったのですが……。



私たちが原わか花さんを応援するのは、彼女がラグビーのオリンピック選手だから、足がめちゃくちゃ速いからなどではありません。

彼女が、周囲から愛され応援されるに値する人間だと固く信じているからこそです。

頑張れニッポン！頑張れ原わか花！！